

光葉ワーキングクラブメールマガジン **4月**

＜2021年4月号＞

166号 2021.04.01 配信

桜の花の季節になりました。緊急事態宣言が解除され、引き続き行動に注意が必要とはいうものの、少しだけ晴れやかな気分が戻ってきたのではないのでしょうか。光葉同窓会も前向きに歩き出しました。2021年度 第48回 光葉同窓会総会を5月16日（日）11:00～12:30 グリーンホールにて行います。イベント、懇親会は行いませんが楽しみにお出かけください。4月1日発行の同窓会報に同封のはがきでお申込みください。みなさまとお会いできるのを楽しみにしております。

■同窓会だより

◆光葉同窓会入会式

3月16日卒業式に引き続き、光葉同窓会入会式が行われました。1,422名の新しい同窓生が誕生し、卒業生は延べ98,365名となりました。

◆卒業式に全国支部会から祝電をいただきました。

卒業式当日、全国の34支部から温かいメッセージをいただきました。

◆2021年度 入学式 4月2日（金） 創立者記念講堂

本年度1,523名（4月1日現在）の新入生を迎えます。

◆同窓会委員会 3月5日（金）13:00～

オンライン（Zoom）で開催、20名が参加しました。

◆2021年度 第1回 ワーキングネットワーク委員会

日時：4月17日（土）14:00～（オンライン Zoom）



（大学8号館グローバルラウンジに掲示）

■学園だより

◆昭和女子大学が EduA「就職偏差値が上がった大学」ランキングで紹介されました。

「就職偏差値が上がった大学」ランキングに関する記事中で、主要企業の就職者が100人以上200人未満の大学中で2位にランクインしました。背景としてスーパーグローバルキャンパスや、卒業生1000人以上の女子大の中で10年連続全国トップの実就職などが紹介されました。

◆上海交通大学とのダブルディグリー・プログラム第4期生を輩出 -<両大学の学位取得者8人>

中国の国家重点大学である上海交通大学（中国・上海）とのダブルディグリー・プログラムを終了し、2つの大学の学位を取得した国際学部国際学科の学生8人が卒業しました。

ダブルディグリー・プログラムは昭和女子大学で3年、海外のプログラム提携校で2年、計5年間学び、2つの大学の学位を取得するものです。第1期生（2017年度）は10人、第2期生（2018年度）は12人、第3期生（2019年度）は4人が両大学の学位を取得しています。

◆「面倒見が良い大学（女子大編）ランキング」で昭和女子大学が1位に選出されました。

大学通信が全国の進学校2,000校の進路指導教諭へのアンケート調査をもとに「面倒見が良い大学（女子大編）ランキング」を発表し、昭和女子大学は30ポイントを獲得して全国の女子大で1位に選出されました。2011年から実施する社会人メンター制度が特に評価されました。

広げよう光の葉

相馬 美樹子 さん

1982年 生活美学科卒 (静岡県支部)

「祖父のトランク」～夢を拓く～

我が家には、大きなトランクがある。大正3年に渡米し昭和22年に帰国した祖父のトランクである。幼い日、私たち孫娘3人を枕もとに呼び祖父は言った。「人生に必要なのは夢、そして幸せになる鍵は言葉、音楽、食事。言葉を学べば歴史を知り挨拶から沢山の国の人と友達になれる。歌を口ずさめば孤独から解放され、文化から世界の広がりを感じる。湯気のある食卓は人を元気にする。言葉と音楽と食事は翼になる。だから学びなさい。夢は叶えるためにある。」夢をはぐくむ職業を考え昭和女子大学の生活美学科で専門性を磨き、魅力ある授業の担い手になりたいと教職に就き38年。大学では、一流の演奏家による音楽会、講演会、古典芸術から世界の文化に触れた感性豊かな学生時代。共に教職を目指す友と過ごした貴重な時間、緑声舎や東明学林で人間教育を施してくださいました諸先生方との出会いは忘れられない。研究発表や生徒指導に追われながら、県や市の教育行政を経験し、中学校長として「学校は換えられないが学校は変えられる」と「子どもが主役の学校」づくりに、集大成として取り組んでいた昨年。突然の臨時休校。新型コロナウイルス感染症対策のため、卒業式の開催も危ぶまれる中、「校長先生の式辞を聞きたい。」と3年生や保護者から手紙をいただき、全教職員で心を込めた卒業式が挙行でき感動した。離任式も送別会もない年度末であったがまさしく、記録より記憶に残る3月であった。校門には花束を抱え「夢を拓くという先生の言葉を人生の指針にしています」と成長した多くの卒業生が母親と共に会いに駆けつけてくれた。「自信がなかった子が、結果よりプロセスが大切。それが生きる力。先生の言葉を宝物にしています。」と。失敗ばかりでミス相馬というあだ名がついた20代。子育てと家庭の両立にあたふたしながら駆け抜けた教職には多くの「感動」と「発見」があった。予測困難な時代だからこそ、子どもたちの力をひき出す教師の育成に役立つことができればと現在、田方地区教員研修協議会で研修を指導し、学校の応援団となっている。

先日、同窓会副会長で同郷河津の亡義父の教え子でもある稲穂様からお電話をいただきました。新採時代、伊豆の文学を子どもたちに紹介し、故郷に誇りを持つ国際人になってほしいと訪れた川端康成ゆかりの宿「福田家」の女将だとお聞きし、出逢いのご縁に感激した。校長を務めた大仁中学校校歌の作曲者古関氏ゆかりの朝のドラマに共感しながら、人生は出会いの連続、「人は人で動く」と沢山の皆様からのエールに深く感謝している。そして、教職を目指す若い力に「エール」を送り続けたい。祖父のトランクには、今も夢が込められている。 【End】